

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202478		
法人名	有限会社 やなぎはら		
事業所名	グループホーム 菜の花の家		
所在地	〒859-3151 佐世保市三川内本町308-6 (電話)0956-26-3720		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月10日	評価確定日	平成19年12月25日

【情報提供票より】(平成19年9月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員	18 人
職員数	17 人	常勤 16 人, 非常勤	人, 常勤換算 15.6 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(退去時)
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 業者負担 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(9月 24日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 97 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三川内病院	岡本歯科診療所	奥田医院
---------	-------	---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体建設業のノウハウを活かした住環境への拘りは、安心、安全、健康を第一に設計され、入居者・職員の毎日が健やかで快適な生活の提供の場となるよう工夫されている。訪問者や面会に訪れる家族の利便性も考慮され、広い駐車場も完備されている。又、現場職員の入居者へのサービスの提供は、【観察】を重要視した取り組みで、訪問調査当日も触れ合い、語り合いなどのちょっとした仕草の中に信頼関係を通した入居者の安堵感が伺えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目については前回なかったと伝えられたが、改善などについては会議で話し合い、会議録に残しているが一過性である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	敬老会で多忙を極める中、全職員で自己評価の取り組みをされている。又、改訂された項目の理解、記載方法も熟知しないままでの取り組みである。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	メンバー登録に理解・協力が得られず相当の時間をかけられたが7月に1回目の運営推進会議を開催されている。地域包括支援センター職員や他のグループホームの施設長、利用者代表、ホームの管理者以上の役職者3名の出席で地域の人不在のスタートであった。会議内容はメンバー紹介、運営推進会議目的、ホームの現状、ホーム行事、意見交換などである。他のグループホームの施設長からアドバイスを受け、紆余曲折しながらも2回目を11月に開催する予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱の設置をされているが、苦情などの投書はなく、ホームとしては家族からの意見の聴取方法や家族会結成を検討されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会行事への参加や学校の教育カリキュラムの受け入れなどホームとして可能な限りの取り組みで地域交流の促進を図られている。最近の例では民生員の方が入居者を墓参りに連れて行かれている。ホームとして、今後は在宅高齢者との関わりの強化を希望し、考慮されている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から地域を意識した運営を心がけられており、理念の【明るく、のびのびと、あるがままに】を入居者に望まれ、その延長線にご近所とのかかわりを目指されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	4年目に入り、馴れ合いからの業務見直しを今年の年間目標に挙げ、【基本的なものに返ってみよう】が職員、管理者の統一した見解である。挨拶や笑顔の対応、言葉かけの見直しを共有の取り組みとし理念に反映した実践を目指されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会行事参加や学校の教育カリキュラムの受け入れなど可能な限りの取り組みで地域交流の促進を図られている。今後は、在宅高齢者との関わりの強化も希望、考慮されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	敬老会行事で多忙を極める中、全職員で自己評価の取り組みをされている。又、改訂された項目・記載法も熟知しないままでの取り組みが惜しまれる。改善項目については、会議で話し合いをされ記録されているが一過性である。	○	評価を活かした改善の意識付け、方向付けのためにも改善内容、目標、具体的取り組み内容、期間、評価などの改善計画シートを作成した取り組みが期待される。又、多忙期を避けた評価時期の見直し、判らないことなどの解決へ向けた取り組みもされると更に良いのではないかな。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月に1回目の運営推進会議を開催されている。メンバー登録に理解・協力が得られず相当の時間をかけられたが、地域の人不在のスタートであった。現在、紆余曲折しながらも2回目を11月に開催する予定である。		

グループホーム 菜の花の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回の介護教室の受託やホームのひな祭り行事への市の担当者の参加など出来ることから少しずつ連携の取り組みをされているが、相談窓口などのフォーマルな社会資源の活用には至っていない。	○	ホームの抱えている問題や疑問点など現場の声を発信する積極的な取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への入居者の状況報告や金銭管理報告は請求書の郵送に同封したり、面会時に伝えたりされている。たよりは不定期的でほとんどが行事にちなんだものである。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をされているが苦情などの投書はなく、ホームとしては家族からの意見の聴取方法や家族会結成を検討されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に伴うユニット間の職員異動がある。ユニット間はコの字型の通路で往来でき、出入口を除けば腰高の壁なので双方のリビングが見渡せるため、面識のある環境である。尚、新任職員の場合は見習い期間を定め、馴染みの職員を介して入居者との距離を縮め、入居者のダメージの軽減を図られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講者は、報告書作成とホーム会議で伝達・発表の機会があり、全職員に情報提供と共有の取り組みがされている。又、報告書は職員が何時でも見ることが出来る場所に保管されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護教室に同業の管理者を講師として登用されている。又、同業者との交流を通して、悩みの共有やアドバイスを受けるなど運営に反映される取り組みである。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでは入居希望者の受理面接がほとんどであったが、今後はホームの多機能性を活かした活動の中に継続性、馴染みの関係作りを意識した地域密着型のサービス提供を検討されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	現場職員は入居者との関わりの中にも学びの姿勢を持ち力量を高められている。入居者の昔の話に子供世代の職員は懐かし共感・回想し、孫世代の職員には初めて聞く話もあり、興味を持って耳を傾けるなど、入居者と喜怒哀楽を共有したケアの提供で入居者との信頼関係作りに努められている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現場職員は入居者の輪の中に入り込み、【明るく、楽しく、笑いのある】をモットーに入居者一人ひとりの意向を把握したサービスの提供を心がけられている。又、意思の表出が上手に出来ない入居者に対しては、表情や感情表現などの観察を重要視した意向の把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の現状を見極め達成可能なことを介護計画に挙げている。個人記録は生活掲示記録と介護計画に沿った記録(青色記載)である。入居者担当職員を中心にケア会議で検討され、介護計画の作成をされている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標設定の意識化に繋がる介護計画に沿った個人記録は、日々の評価もされているので原状に即した見直しに繋がっている。		

グループホーム 菜の花の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診同行や年2回(行事の少ない時期)の入居者一人ひとりの思いや希望の実現に向けた特別の外出支援などの取り組みをされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ入居者や家族の希望するかかりつけ医の継続受診支援に努められているが、かかりつけ医が遠方の場合に入居者、家族などと話し合い、ホームの協力医とも相談して医療連携の下、より良い受診支援になるよう努められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしても重度化や終末期の対応希望があれば、それに応えたい気持ちは十分持たれているが、職員の力量、環境などを考慮され検討中である。	○	検討内容を掘り下げて、入居者の状況・家族の要望などを組み入れた、事業所として可能な限りの対応の取り組みに期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には常日頃から言葉使いや言葉かけに関して指導されている。又、記録物などは特定の場所にカーテンで目隠し保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の流れの中に可能な限り入居者の希望を取り入れ、その時々入居者の状態把握で入居者に無理のない支援を心がけられている。		

グループホーム 菜の花の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力・経験を通じた関わりの場を食生活の中にも取り入れ、また入居者間のトラブルをさけるため、台拭き、配膳、下膳、後片付けを一応当番制(当番表掲示)にされ、無理強いではなく自発性と役割、有用性を通して楽しみに繋がるよう支援されている。訪問当日の入居者と職員の会話ながらの食事風景や作業の様子は家庭的である。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かされているが、基本的に入居者の入浴日は決められている。尚、入居者の希望があれば可能な限り提供できるよう努められている。入居者の習慣を聞き入れ、入浴剤を使用されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者の経歴や趣味、興味を把握されており、入居者の状態観察を通して声かけ誘導や自発的行動の見守りなどで、入居者の張り合いや喜びに繋がる支援に努められている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事外出以外にも家族同行の外出や入居者の興味・趣味を利用した声かけなどで場面・環境づくりをされ、意識を外出するように誘導し入居者の外出支援へ繋がられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全対策上、玄関戸を日中は施錠されており、家族など関係者には説明し了解を得られている。又、玄関戸にもプレートに施錠説明とインターホン利用の呼びかけが記載され取り付けられている。但し、夏祭りの行事のときは、職員に見守りの強化を要請しインターロックを解除されている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、消防署の協力を得て消防・避難訓練やホームとしての防火安全対策の取り組みをされている。又、町内会にも取り組み内容等について具体的に説明し、非常時の協力体制の確保をされている。しかし、自然災害時のライフラインの確保に繋がる取り決めには至っていない。	○	自然災害時のライフラインの確保に繋がる関係機関などとの連絡網(体制)の把握、広域避難場所・経路の確認、持ち出し品リスト、備蓄など文面化し定期的点検・確認を通して災害時に備えられることが望まれる。

グループホーム 菜の花の家

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取カロリーなど職員の知識の範囲内で対応されている。又、入居者の状態や力量に応じた調理法で量なども加減された提供である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの天井と天然木材の香りが共用空間に安らぎを提供し、対面式のシステムキッチンからは生活音と煮炊きの匂いが、リビングで寛ぐ入居者の五感に響く環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品や装飾などから入居者の生活歴や趣味、個性が窺え、気の合った入居者同士が訪問し共有の時間を過ごされている様子も見られ、居室が入居者にとって居心地よく、落ち着ける場所になっている。		